石川県石川郡美川町方言の比喩語について

江　端　義　夫

はじめに

1．調査対象地：美川町は、石川県の西南部、金沢市と小松市との中間に位置し、白山に源を発する手取川が日本海に接する平野に開けた町である。手取川の鮭や日本海の海産物と並んで仏壇や刺繍などの伝統産業が栄えている。第２次産業と第３次産業とがそれぞれ４８％を越えており、農・林・漁業は３％未満となっている。人口はおよそ１２，０００人、戸数は３，３００戸ほどである。転入者よりも転出者の数の方が増える傾向にある。

2．調査年月日日時：１９９３年３月１日午後１時００～４時１０分

3．話者：二口初枝　明治４１年１０月２７日生（８４歳）

三輪ミドリ　大正６年２月２１日（７６歳）

奥田由雄　大正４年１１月１７日（７７歳）

粟津一郎　昭和２年２月１８日（６６歳）

四人の話者の間に若干の個人差が存しても、区別せず、一共時態の総和と見なして記述した。

4．調査者・調査場所：江端義夫、美川町文化会館研修室（日常的にくつろげる場席）

5．調査方法・調査時の様子：調査票に基づいて尋ねる方法をとった。終始、うちとけた雰囲気。話者それぞれに、７７項目について、十分に発言していただいた。

6．表記法：品詞、使用者層、頻度、新古、品位については簡略に従う。語に対する話者の説明は「　」で表し、筆者の考察を加えた。統一項目に関連した比喩語は、＊印で、掲出した。比喩語は極めて少なかったので、比喩語でない語も省略せずにとりあげた。なお、語、連語、句などの区別は、していない。

Ⅰ　《自然現象》

1．日照り雨　①キツネノ　ヨメドリノ　アメ（狐の嫁取りの雨）、中・老、盛、古②キツネノ　ヨメドリ（狐の嫁取り）、中・老、盛、古　「狐が化かしてお嫁取りをして、晴れ間にすっと通って行くとの言い伝え」からだという。標準語は「にわか雨」だとされ、若い人は「ヒデリアメ（日照り雨）」を使うそうだ。引喩か。

2．入道雲　ニュードーグモ（入道雲）、○モグモグット　グモ　デテ　キタ。（もくもくっと雲が出て来た。）話者４人は漁師ではないので、雲に関心がないと言い添えた。隠喩か。

3．旋風　タツマキ（竜巻き）、つむじを「チリ」（旋毛）と言い、渦のことを「ウズ」

とも「チリ　モートル（渦巻いている）」とも言うが、竜巻きを「チリ」とは言わないそうだ。隠喩か。

4．霜柱　①シモ（霜）、盛、○キャー　シマー　フットン　ネン。（今日は霜柱が立っているよ。）○ツララト　チガウ　ガヤ。アガル　シモヤ。（つららと違うよ。上がる霜柱だよ。）霜柱と霜を区別せずに、同義に解しているようである。②シモバシラ（霜柱）、少。共通語と同形の②の方が隠喩か。

5．つらら　①タロキ（垂れ氷）、盛、○ナゲー　タロキャ　サガッタ　ネー。（長いつららが下がったねえ。）②ツララ（つらら）、標準語、少。「キ（木）」と見れば①は隠喩か。

6．北斗七星　①ナナツボシ（七つ星）、盛「七つ星を見るとエー　コトガ　アルとの言い伝えがあった」という。②ホクトシーセー（北斗七星）、標準語、少。

7．昴　不明、無回答。

8．流れ星　ナガレボシ（流れ星）、○ナガレボシ　ミルト　ソノ　アイダニ　ネガイゴト　スルト　カナウトカ　イッテ。（流れ星を見ると、その流れる間に願い言をすると、叶うとかと言って…）活喩か。

II　《動物》

9．かわはぎ　バクチコキ（博打こき）、盛、○ハダカン　ナルチュ　コトヤ。（裸になるという事だ。）持ち物や衣服まで剥ぎ取られることを、博打の仕儀に喩えたもの。諷喩か。

10．ひらめ　ヒラメ（平目）、盛、○目がヒダリニ　ツイトルガ　ヒラメ。（〈目が〉左についているのが平目。）

11．ひきがえる　ガマ（蝦蟇）、稀、○チャイロヤ。オーキーガ　デテ　クル　ヨ。（茶色だ。大きいのが出没するよ。）蛙の総称は「ギャワズ」だということである。

12．青大将　アオダイショー（青大将）、稀、○ワタシラン　コドモン　トキ　オッタワー。（私らの子供の時にいたよ。）

＊タモトヘビ（袂蛇）　一尺ほどの短い黒い蛇を言う。

13．とかげ　トキャク（蜥蜴）、盛、○とかげはハシケー　ガヤ。（蜥蜴はすばしこいよ。）北陸地方では広く、「トキャク」が聞かれる。語源不詳。

14．かまきり　カマキリ（鎌切り）、盛、種々の語を提示してみたが、他語を思いつかないようであった。隠喩か。

15．みずすまし　ミズスマシ（水澄まし）、盛、これ以外の語形は得られなかった。隠喩か。

16．きつつき　キツツキ（木突突き）、稀、「この辺には啄木鳥はいない。百舌はいるが。」美川町は、山も丘もなく、一面の平坦な平野であるため、人々は山鳥に慣じみが薄い。

17. せきれい　無回答、○オルケド　ナマエ　シラン　ナー。（居るけど名前を知らないね。）鶺鴒とかいつぶりとを間違えて回答したりもした。

18. ふくろう　フクロー（梟）、稀、○ムカシー　イッツモ　ナイトッタ。（昔いつも鳴いていた。）茅葺き屋根の屋内に巣を作っていたということである。

Ⅲ　《植物》

19. 馬鈴薯　ジャガイモ（じゃがいも）、盛。ジャガタライモ（ジャカルタ産の芋の意）と回答した老男が、冗談だと言ってとりさげた。換喩か。

20. とうもろこし　トーキビ（唐黍）、盛、「この語のみ。ナンバはとんがらしのこと。」という。換喩か。

21. いんげん豆　インゲンマメ（隠元豆）、盛、比喩語なし。人名由来ならば、換喩か。

22. そら豆　ケツマメ（穴豆）、盛、○オシリニ　ニテルカラ。マルミガ（お尻に似ているから。豆の丸みが。）隠喩か。

23. 木くらげ　キクラゲ（木海月）、○クロイガト　シロイガト　アッテー…。（黒いのと白いのとあって…。）この土地では収穫できないので、買っては、最近に食べるようになったという。隠喩か。

24. げんのしょうこ　オンコシバナ（おんこし花）、盛、○ムカシャー　カンソーシテトットイタ　ガチャ。（昔は、乾燥して取っておいたのさ。）土地では、大便を「オンコ」という。臭い花の意味で「オンコシバナ」と言うのだ、と説明されたが、語源は不明。

25. どくだみ　ドクダメ（毒だめ）、盛、○カラダカラ　トク　オロシャー　ナンデモイー　ガネー。（体から毒を下ろせば、何でもよいよね。）子供会で寄せ集めたこともあるという。美川町の民間薬。「毒下ろし」の意で「どくだめ」を使用していると解される。隠喩か。

26. いたどり　①ズイキ（ずいき）、②ウマズイキ（馬ずいき）「馬が好んで食べるから」とか。○ロクマクエン　モノスゴイ　クスリヤ。（肋膜炎に効くものすごい薬だ。）里芋の葉柄を共通語でズイキというが、この土地でそれとこれとの関係がどうなっているのか、語源をも含めて未詳。

27. からすうり　無回答

28. すみれ　スミレ（すみれ）、盛、「この他に言い方はない。」という。

29. 春蘭　無回答、「この辺には無い。」とか。

30. 母子草　ハハコグサ（母子草）、稀。隠喩か。

31. ねむの木　①ネム（ねむ）、②ネブノキ（ねぶのき）、「六月の梅雨の雨あがり頃に咲く。」○ムカシ　ハマニ　ヨー　アッタ。ゼンブ　サボーノガニ　ウエテアッタ　ワ。（昔、浜によくあった。全部、砂防の為に植えてあったよ。）諷喩と言うべきか。

Ⅳ 《性向》

32. 熱しやすく冷めやすい人　アキショーモン（飽き性者）、盛、凝り性者の反対で、ものごとに飽き易い性格の人のこと。比喩語とは言えない。

33. あわてん坊　無回答。呼称は得られなかった。そそっかしさを制する三つの表現がある。①チャチャカ　シ下ンナ　マー。（そそっかしくするなよ。）〈立腹ぎみ〉、②アシクラシ　シ下ンナ。（落ちついていなさい。）〈たしなめるとき〉、③ジット　シ下レ。（じっとしていろ。）〈共通語風情で〉

34. 動作の鈍い人　①ノロマ（のろま）、②ノロイ　シト（のろい人）、「これ以外には無い」という。

35. 嘘つき　①カラクサンナ　ヒト（からくさんな人）、盛、②アテギナー　シト（あてにならない人）、盛、③ウソコキ（嘘こき）、稀。①については青森県地方で「未熟であることをののしって言う語」として「からくさい（小便臭い）」が『日本方言大辞典』に見えるので、それとの関連を考えたい。②については、土地人が「アテン　ナラン　コト　ユートル」（あてにならないことを言っている）人だとされたが、それよりも古語の「阿潤」ではないかと考えられる。①②はいずれも、現行の方言辞典に未登載の語である。

36. ほらふき　①ラッパ（喇叭）、②ラッパコキ（喇叭こき）、③オーブロシキ（大風呂敷き）。①②は拡声作用、③は「大風呂敷を広げる」との諺に依る。諷喩か。

37. おしゃべり　①オシャベリ（お喋り）、②チャベ（ちゃべ、多弁者）、盛、③チャベコキ（多弁な奴、気嫌とり）、下、○アノ　シト　チャベ　ヤー。（あの人、多弁だね。）東北以西、九州にまで分布する「チャベ」の語源は、不確かだが、べちゃくちゃと多弁な様子を描写したものではないかと身近かな案を考えている。声喩か。

38. 冗談言い　オチャコキ（おちゃこき、気嫌とり）、下、冗談であるか否かに関わらず、多弁を気嫌とりと低く評価している。声喩か。

39. 口先だけの人　アテギナ　シト（あてぎな人）、「話に中味がない人のこと、あてにならない人」の意だという。項目35の呼称と同じ。

40. とんちんかんなことを言う人　①ワヤクバッカリ　ユー　ヒト（わやくばかり言う人、いたずら言い）、盛、②カラクサンナ　ヒト（からくさんな人、嘘つき）、盛、③デタラメヤ（出鱈目屋）、盛、④ダラナ　コト　ユー　ヒト（筋違いのことを言う人）、盛。①～④ともに言い分けて使用される。④の「ダラ～」は中部日本以西で広く行われる語で、「怠し・懶し」の派生使用かと見られる。比喩語としては②だけかと考えている。

41. のらりくらり煮えきらない人　①タロマツ（太郎松）、下、②ダラキヤ（だらき屋、馬鹿者）、下。①には、「ハラニモットル　コトガ　ワカラン。（腹に持ってい

ることが分からない。）」ような信頼できない人の意味を含む。人をだますことを近畿では「太郎」ということがある。①はそれと関連するものであろう。辞典にも「べてんにかける」ことを「たろうに掛ける」（京都・和歌山）とある。換喩か。

42．怒りっぽい人　①ハラタテムシ（腹立て虫）、②ハラタチムシ（腹立ち虫）①②ともに、立腹し易い人を虫に喩えたけなしことば（隠喩）である。

43．気むらな人　①オテンキニン（お天気人）、○テンキニ　ヨッテ　サユーサレル。ソノ　ヒニ　ヨッテヤ。（テンキニよって気分が左右される。その日によってだ。）②オテンキモン（お天気者）、盛。むら気を天候のゆれに喩えたもの。諷喩か。

44．泣き虫　ナキミソ（泣き味噌）、盛、泣き虫をからかい気味にとらえた語であろうか。性別を問わず、泣きっぽい人のことを言うとのことである。「みそ」を味噌を解すれば比喩語だが、「～べそ」の音転と考えれば当たらない。語呂あわせの詞喩か。

45．おてんば娘　①オトコメロ（男女子）、盛、②バッチャメロ（ばっちゃ女子）、盛、「やんちゃでおてんばな女子を喧嘩ごしで言うときのことば」だという。①は女を男の荒っぽさに喩えたもの。②は、「はち～」で、広く全国に行われるおてんば娘の俚言につながる。「八兵衛」か「八幡」か「撥」かその他かは定め難い。「メロ」は土地ことばで「女、小娘」の意。

46．腕白坊主　ワリー　コト　ボーズ（悪いこと坊主）、○エー　クソ。ワリーコト　ボーズヤ。（くそ！わんぱく坊主だ。）高音部がひと続きにつながり、一語のまとまりを成す。いたずらばかりする男の子という意味。

47．出しゃばり　デシャバリ（出しゃばり）

48．どこへでも顔を出す人　デスキ（出好き）、いかにも造語の妙を過不足なく表した語と言ってよい。比喩どころではなく、生き写しの語である。

49．家にこもって外出しない人　①インジンナ　シト（いんじんな人、陰気な人、引っこもりがちな人）、盛、②インキナ　シト（いんじんな人のこと）①が「因循な人」の音転にすぎないとすれば、これは比喩語とは言えない。

50．小心者　キノ　チーシェーシト（気の小さい人）

51．内弁慶　①ウチブリガ　ワリー　コ（家の内での振る舞いが悪い子）、「こういう子はソトブリガ　イー（外聞がよい）。」、②ウチベンケー（内弁慶）、「内弁慶にソトスライー（外面がよい）。」の諺があるという。共通語である②は、換喩か。

52．人づきあいをしない人、社交性のない人　①ツッキャイノ　ワリー　ヒト（付きあいの悪い人）、盛、②ヨクンビー（欲ばり者、社交性のない人をあざけって言う語）、稀、③クロワリズ（人との交流をしたがらない人）、稀、○クロワリズヤ

カラ　ダレモ　エーテニ　セン　ガヤ。（絶交者だから誰も相手にしないのさ。）②は人との付き合いを断てば、金銭は不要だから、付き合いを避けようとする人は欲ばり者と言うのだ、とのことである。なるほど、と感心させられた。隠喩と言うべきか。③は方言辞典に未登載の語で、語源も分からない。

53．妻に対して頭の上がらない男　ヨーシ（養子）、盛、○ベツニ　ヨーシニ　イカナンデモ　アィ　ヨーシヤチュコトー　ユー　コトガ　アルシ　ネー。（別に養子に行かなくても、あれは養子だということを言うことがあるしね。）「ヨーシ」は典型例を挙げて全体に換える換喩の一例と見ることができよう。

＊カカテンカ（嗅天下）　亭主関白の逆。奥さんに主導権がある状態の家。

＊カミサンニ　シリニ　ヒカレル（奥さんの尻に敷かれる）　家庭の主導権が妻にある家の状態。

54．けち　①アカニシ（赤螺）、盛、○下ーモ　ナラン　シト　アノシト　モノスゴー　アカニシヤ　ワーッテ　ユータ　ワ。（どうにもならない人を、あの人はものすごく赤螺だって言ったね。）直径２０cmもある赤螺は、苦くて、煮ても焼いても食べられないものだそうである。②ケチ（けち）、③ケチンボー（けちん坊）

55．欲張り　キタネー　ヤツ（汚い奴）、盛。欲深さを清潔か汚濁かで置き換えたもの。隠喩か。

V　《食生活》

56．大食漢　オーグイ（大食い）

57．ぼたもち　①ケーモチ（かいもちい、掻餅）、盛、○ケーモチ　タベル　カー。（かい餅を食べようか。）「１年に何度も作って食べる。」②ハンゴロシ（半殺し）、「ツキリにしないで半分搗くだけの餅」だという。③ボタモチ（ぼた餅、春につくる場合の言い方）、④ハギ（ぼた餅、秋につくる場合の言い方）①②は諷喩か。③④は隠喩か。

土地で最も普通に使うのは①だという。古語の掻餅は「正月の鏡餅を手で欠いた小片」だという。北陸・中部・東北の「かいもち」はぼたもちを指し、古語での意味から離れた。

58．砂糖味が薄い　①アジケナイ（味気ない）、盛、②アモネー（甘くない）、③サ下ケ　タラン（砂糖気が足らない）。

①の「あじけない（味気ない）」は、砂糖味が薄いことを言い表したものであるけれども、味覚の代表語で言い定める換喩語に従っている。但し、②③では具体的な味覚の表現をとった。①は比喩語と見ておく。

59．塩味が薄い　①ショーネー（塩がない）、盛、②ショーモネー（塩気もない）、③シオンネー（味噌汁の塩味が足りない）、④ミズッポイ（水っぽい）、⑤シオケネー（塩気がない）

60. 大酒飲み　ノンベー（飲ん兵衛）、よく酒を飲む人を、代表的な庶民の名前の形態素「～兵衛」をあてたもの。換喩か。

61. 酒に酔ってくだをまく　①イバラケ　アル（茨気がある）、盛、○アノ　ヒト　イバラケ　アルサカイ～。（あの人、茨気があるから～。）酒ぐせの悪い人を、「イバラケ」とか「イバラ」とかとも言うようである。茨の小枝や刺が人に絡みがちなのに喩えた語であろうか。「スグ　カランデ　クルチュ　コト。イバラテ　ユー。（すぐに絡んでくるということ。茨という。）」の発話で明らか。②アバレル（暴れる）

62. 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま　アコナル（赤くなる）、稀、○アコナルノワ　ヨワイテ　ユー。（酒で顔が赤くなるのは酒に弱いと言う。）

VI　《動作・様態》

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま　ケァー　チシェー（気が小さい）、○ケァー　チシェサケーニ　スグ　アコナル。（気が小さいからすぐ顔が赤くなる。）

64. どしゃぶりの雨　ドシャブリ（土砂降り、豪雨の様態）隠喩か。

65. ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま　ビショヌレン　ナッタ（びしょ濡れになった）

66. 服装がだらしないさま　①ジャチャンネガニ　キモノ　キトル（締まりのない恰好に着物を着ている）、盛、○マエガ　ハダケトルチュ　コト　ヨネー（着物の前がはだけているということよね。）単に服装の乱れに限らず、「整わない話し方、不完全な話」に対しても、「○ジャチャンネ　ゴト　ユートン　ナ。モーシト　シッカリ　シャベレ。（みっともないことを言っていてはいけない。もう少し、しっかり話せ。）」のように言う。長崎県五島にもこの語は存するようであるが、語源などは、今のところ詳かでない。②メンデ　カッコー（見苦しい恰好）、稀、○アンナ　ジャチャンネ　カッコシテ　メンデーテ　コー　ユーガヤ　ガ。（あんなみっともない恰好して見苦しいとこう言うのだよ。）「めんだう（面倒）」に由来する「メンデー」は、古語での意味と同じく、「見苦しい・みにくい」の意。北陸・近畿・中国に分布する②を共有しつつ、①を際立たせているのが注目される。

67. 髭がのび放題なさま　ブショー（無精なさま）

　＊ブショーヒゲ（無精髭そのもの）

68. 厚化粧をしている人　無回答

　＊カベ　ヌットル（顔に壁を塗っている）「○イー　トシ　シテ　カベ　ヌットル。（年輩になっても年に似合わず厚化粧をしている。）」人そのものを言い表す語は得られなかったが、様態を表す比喩語は得られた。諷喩か。

69. 背丈の高い人　ノッポ（のっぽ）

70．出びたい　デコベ（でこべ）、盛、中部・北陸に見られるが、「でかうべ（出頭）」に由来するのであれば、「デコベ」を比喩語とは言い難い。

71．汗がひたいから流れ落ちる　①アシェァー　カワン　ナッテ　ナガレタ（汗が川になって流れた）。②アシェァー　タキミテーニ　ナガレテ　キタ（汗は滝みたいに流れてきた）。前者の例の①は「川」に喩え、後者の②は「滝」に喩えている。張喩か。

72．目を丸くする　①ビックリシター（びっくりした）、②オドロイタ（驚いた）、普通には「目を丸くする」などの言い方は行わないという。

73．口をとがらす　①クチ　トンガラカス（口をとがらかす）、②ポンポンナ　カオスル（立腹した顔をする）、③メーンデー　カオスル（みっともない顔をする）

②の「ぽんぽんなかおする」は、河豚のように頬を膨らませた様子に喩えたものと見られる。全国的にも「ぽんぽん～」を立腹の様子に見立てた例は珍しい。

74．焦げ臭いにおい　①コゲクサイ（焦げ臭い、においの総称）、②キナグサイ（紙、布の焦げるにおい）、③ゴムクセー（ゴムが焼ける臭いがする）、いずれも比喩語とは認めにくい。

75．遠廻り（をする）　マーリミチ（廻り道）

76．末っ子　①バッシ（末子）、共通語か。②オトノコ（弟の子、年のおとる方の子、末子）、盛。③ニンニ（性別に関係なく末子のこと、赤子・年少子の意）、その子が成人した後にでも使用可能だという、盛。④アトノコ（最後の子、末子）。

兄の意味で「にんに」を言う地域は存するが、末っ子を「にんに」と言うのは、今のところ、全国での報告は、ここが初めてである。語源は、「ねんね＝赤ん坊」ではなかろうか。

77．一生懸命頑張る　ガンバル（頑張る）、○ガンバットルマッシャル　ネー。（頑張っていなさるねえ。）

まとめ

1．隠喩、諷喩、換喩、詞喩、張喩、引喩、活喩、声喩など、多様な比喩法が見られた。

2．比喩によらないで、ものの直接描写で造語されている例も少なくないことは、注目しておきたい。

3．比喩法では、隠喩の例が多い。その他には、特に、用例は少ないが、諷喩におもしろいものがある。「かわはぎ」を「バクチウチ」、「ほらふき」を「オーブロシキ」とするなど、庶民的且つ生活的であり、ユーモアに富む。

4．方言生活の人生界における比喩語法の意味と価値を考えることが必要であろう。さらに、世界の方言の比喩語法を比較して、文化の型を考え、人間を論じたいものである。

（えばた　よしお　　広島大学教育学部）